

研究主題

自ら考え、深く学び合う子ども（2年次）  
～ICTの効果的活用と資質・能力の育成～

1 主題設定の理由

本校では、教育目標を次のように掲げている。

夢と感動 勇気と感謝 みはらしの丘の未来を創る

生きる力にあふれる子どもの育成

現在みはらしの丘小に通う子どもたちが、成人し社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎える。生産年齢の人口減少、グローバル化の進展、絶え間ない技術革新等と、変化の予測が困難な時代になる。このような社会の変化に受動的に対応するのではなく、主体的に関わり自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となってほしいと考える。そのためには、資質・能力を確実に育成することのできる校内研究にしていきたい。多様な子どもたち一人ひとりに、より確実に資質・能力を身につけるには、ICTを活用した個別最適・協働的な学びが有効である。また、ICTを効果的に使うことで、学びの質が高まり、深い学びにつながっていくことが期待される。そして、様々な問題において他者と協働し、その力を発揮して未来を切り拓いてほしいと考える。

昨年度の成果と課題は、概ね次の通りである。

資質・能力の育成について

- タブレットや電子黒板を利用すると、画像や考えなどを「比較したり」「関連付けたり」して思考力を育成する姿が見られた。
- プレゼンをしたり、資料をもとに考えを交流したり、文章を書いたりするなど言語能力を活用する姿が見られた。
- 文章を書くときに、タブレットを使用すると、言葉や画像のコピー＆ペーストなど操作が容易な反面、自分の考えを持たなくてもまとめることができってしまう。
- タブレットの操作やタイピングなどのスキルを身につけていないと、使用するときには時間がかかり、目指す資質・能力の育成まで至らないことがある。
- 低学年では、タブレットの扱いもまだ難しく、タイピングもできないことから、言語能力や思考力の育成はハードルが高い。

主体的、対話的で深い学びについて

【主体的学び】

○タブレットや電子黒板の活用により、課題などを視覚的に捉えたり、情報を共有できたり、簡単に間違いを直したりすることができた。それにより意欲的に課題に取り組む姿が多く見られた。

【対話的学び】

- 電子黒板やタブレットでの提示（動画、画像、画面一覧、友達の考え・・・）により、子どもたちの対話が生まれた。
- タブレットで作成したものを、自分の言葉で伝えるのではなく、タブレットの画面を見せて交流する場面が見られた。

【深い学び】

- タブレットで気になったことを調べ、わかったことをまとめた。
- タブレットでの学習は、簡単にやり直しができる反面、画面上から削除されると、子どもの思考が見えづらい。

昨年度の研究をふりかえると、深い学びに迫る実践が多く見られたものの、「ICT の効果的な活用について」が話題の中心に置かれたことにより、「どのような深い学びの姿が見られたのかについて」あまり語られなかった。今年度は研究主題の「自ら考え、深く学び合う子ども」にせまるための「ICT の活用」ということを改めて念頭に置き研究を進めていきたい。以上を踏まえ、本校の教育目標の実現と社会的背景、子どもたちの学びの姿から、引き続き上記の研究主題を続けることにする。

## 2 副題と教科横断的な資質・能力の育成について

ICT の活用は子どもたちの主体的、対話的学びに影響を与え、児童の「論理的思考力」の育成を行う際の有効な手段になり得ることがわかってきた。そこで、本校の子どもたちの学びの姿をもとに検討した結果、資質・能力をバランスよく育成していくために「論理的思考力」と「言語能力」を相互に関わらせながら育む必要があると思われる。そこで、育成を目指す資質・能力として「論理的思考力」を働かせながら、「言語能力」の育成に重点的に取り組み、深い学びに至るための ICT の効果的な活用について話し合えるようにしていきたい。

さらに、ICT の効果的な活用には教科横断的な資質・能力の「情報活用能力」が不可欠である。「情報活用能力」も情報活用能力系統表をもとに教科等横断的に取り組み育成していく。

### ICT 活用の強み

- ① 情報を収集、整理・分析、まとめ、表現したりする。
- ② 児童の思考の過程や結果を可視化する。
- ③ 情報を共有する。

### 論理的思考力

○筋道を立てて考え、結論付ける力（手順を追って考え、聞き手が納得する。）

6つの考え方・多面的・多角的に考える「Aの立場から、Bの立場から」

- ・比較する「AとBを比べると」
- ・理由付ける「AになるのはBだから」
- ・順序づける「Aの次はBで」
- ・関連づける「AとBをつなげる。」
- ・構造化する「AとBをまとめると」

### 言語能力

・言葉の働きや役割、特徴、決まりを理解する力

「語彙を増やす、言葉の意味の理解、話し方・聞き方、

主語と述語の関係の理解、文章の意図を読解する など」

・情報を多角的・多面的に精査し構造化する力

「必要な情報を選び出す、情報をまとめる 要約 など」

・感情や想像を言葉にする力

「詩を書く、ふりかえりを書く」

・言葉を通じて伝えあう力

「相手を意識して発表する、自分の考えを書いて伝える など」

・構成・表現形式を評価する力

### 情報活用能力

情報の収集、整理・比較・分析・発信・共有できる力。

さらに、タブレット等の基本的な操作やプログラミング的思考、情報モラル等に関する資質・能力等 も含む。

### 3 具体的な取り組み（研究の内容）

#### （1）教科横断的な資質・能力の育成とカリキュラム・マネジメントの作成（各学年）

##### ① 資質・能力の重点（論理的思考力・言語能力）

↓  
ICTの活用場面を検討

タブレットの使用状況調査をもとに、ICTを効果的に活用できそうな教科や単元、学習内容を探る。

↓  
ICT活用の授業づくり

（ 各教科  
総合的な学習の時間…ICTを活用した地域学習  
個別の調べ学習→発表  
単元内自由進度学習 など ） } 学習の個性化

↓  
授業における資質・能力の「自覚と発揮」の繰り返し→資質・能力の定着

#### （2）プログラミング教育の推進

- ・カリキュラム・マネジメントにプログラミングの授業を計画、実践。
- ・プログラミング教育についての研修の実施。

#### （3）ICT活用場面・活用方法の共有と発信

- ・効果的だったICTの実践の紹介・共有（研究推進委員→全職員）
- ・~~実践・活用方法をホームページで発信（研究推進委員、全職員、情報主任）~~  
→近隣校への授業（学年部研）の公開
- ・先進校への研修を積極的に行う。

#### （4）タイピング・ICT活用のための練習時間の確保

- ・朝の活動（学年・学級の裁量の時間を活用）にタイピングやICTの活用のための時間を確保し、情報活用能力の向上をはかる。

#### （5）ネットモラル教育の充実

- ・年間指導計画に基づく計画的なネットモラル教育の実施。

#### （6）タブレットの家庭への持ち帰りの実施

- ・実施計画の作成
- ・実施内容の検討
- ・AIドリルの計画的実施（キュピナ、Eライブラリ、） 指導の個別化

## (7) ICT を活用した授業づくりの視点

ICT を取り入れた授業づくりにあたり、以下の視点を留意して行っていく。また、研究授業においては、3つの視点の内、1つ以上選択して指導案に明記する。事後研で効果的であったか振り返り、研究通信に成果と課題を記録する。

### ◆視点①【主体的な学び】

- (例) ・児童が意欲的に取り組めるような ICT の選択  
・魅力的な課題設定 (拡大して提示 など)  
・児童が自分の学びを実感できるようなふりかえりの実施 など

### ◆視点②【対話的な学び】

- (例) ・ICT を活用した協働的な学び合いのコーディネート  
・言語 (音声・文字) を用いて思考し、相手に分かりやすく伝えたり、相手の考えを理解しながら聞いたりして、伝え合う。  
・子ども同士の協働、教職員や地域の人々との対話、先哲の考え方を手がかりに考える など

### ◆視点③【深い学び】

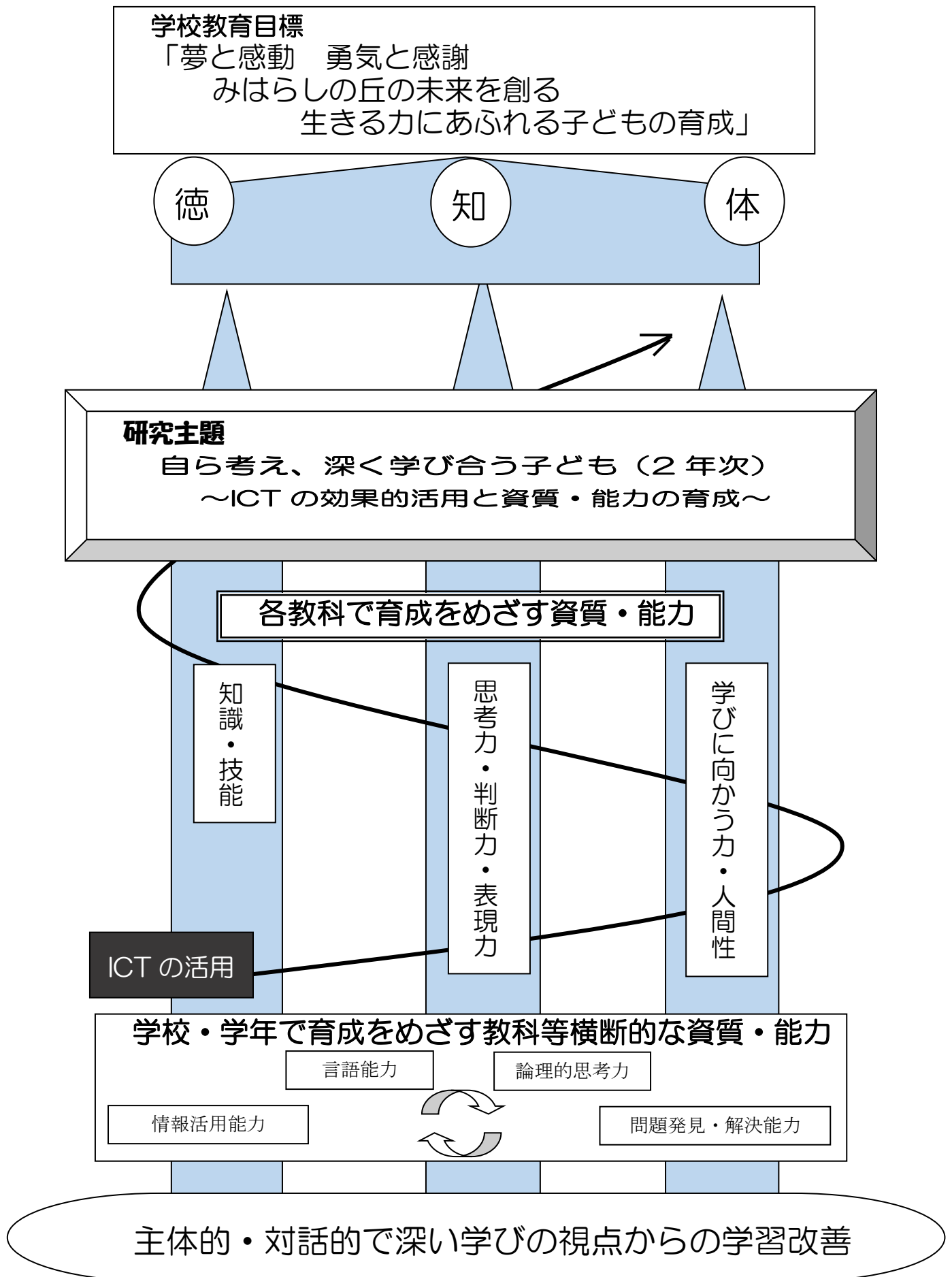
- (例) ・知識と知識を関連付けて、新しいつながりや関係に気付く  
・必要な情報を選び取り、自分なりの考えを持つ。  
・各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら知識を相互に関連づけてより深く理解する。  
・問題を見いだして解決策を考える。

※必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではないので、単元などの学習のまとまりの中でICTをどのように活用できるか検討していく。

### (研究通信の視点)

- ① 資質・能力 (論理的思考力・言語能力) の育成について~何ができるようになったのか
- ② 【主体的な学び・対話的な学び・深い学び】について~どのように学んだか
- ③ ICT の活用について

### 3 研究全体構想図



## 4 校内の組織

校長 教頭 教務 研究主任 副主任 情報主任 まなびづくり部長  
研究推進委員（各学年1名ずつ、情報担当も兼ねる）

### 研究推進委員会の役割

- ・校内研修の企画、研究理論の立案・検討
- ・校内研修環境の整備や情報の提供、話題づくり
- ・研究のまとめの検討・作成
- ・校内研究全体会・研究企画授業研究会の運営

## 5 校内研究の方法

### (1) 研究授業について

全職員が指導案を書いて授業を公開する。 授業づくりは全職員が行う。

#### ①研究企画授業研究会（企画研）→行わない

- ・新型コロナの感染状況を踏まえると、全教員が集まって授業を参観するのは難しいと考える。そのため、企画研は行わず学年部研・学年研のみとする。

#### ②学年部授業研究会（学年部研）年3回

- ・学年部1名が授業を行う。（学年部の教員全員が参観する。）
- ・事前研、事後研は学年部と希望者で行う。
- ・学年部研授業者は、授業前に「授業の視点」を作成・配付し、研究の視点に沿って授業を見合えるようにする。
- ・外部から講師の先生を招き、指導していただく。

- ・計画を立てる
- ・一覧表にする
- ・月曆に載せる

#### ③学年授業研究会（学年研）各学年・支援学級

- ・学年部研を行わない教員が授業を行う。（学年の教員全員が参観する。）
- ・事前研、事後研は学年と希望者で行う。
- ・支援学級は、事前に参観することを担任に伝え、必要に応じて参観する。

#### ④参観について

- ・担当の学年部研、学年研のほかに、他学年部の授業を一つ以上参観するようにする。

### (2) 資質・能力と教科について

それぞれの教科の資質・能力の育成を目指しながら、学習の基盤となる資質・能力として、言語能力と論理的思考力の育成に重点を置く。また、ICTの活用を通して情報活用能力も共につけていけるようにする。

研究は教科をしぼらず行うが、いろいろな教科とICTの効果的活用の関係について検討するため学年部研は別の教科である方が好ましい。学年研はこの限りではないが、学年部研と同じ教科で行う場合、単元は別にする。

### (3) 指導案について ※別紙参照

### (4) まとめ方について

- ・「研究通信」を作成し、研究集録に載せる。3つの視点について話し合う。
- 授業研究会や事後研の記録やまとめを、配付はしなくてもよいが、2週間以内にまとめておくとよい。

(5) 校内研究全体会・研修会

- 4月 日 ( ) 第1回全体会 校内研究の計画と進め方(概要をもとに)
- 月 日 ( ) 校内研修
- 月 日 ( ) 校内研修

→研究収録作成計画は12月中に連絡、今年度の成果と課題は2月の全体会で報告する。

- 2月 日 ( ) 第2回全体会 今年度の成果と課題、来年度研究について

○教師のニーズや教育課程等に併せて、ミニ研修会を随時行う。

○月一回程度、研究推進委員(必要なら情報主任も)が集まり、

実践の共有・発信と情報教育の推進の話し合いを行う。

6 研究計画と目指す子どもの姿(☆)

第1年次	<p>○校内の体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報主任も加わり、研究推進委員会で校内のICTを使って何ができるか検討する。</li> </ul> <p>○カリキュラムの検討(教科部会・各学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度のカリキュラムとタブレット使用状況をもとに、ICTを効果的に活用できそうな教科や単元、学習内容を探る。</li> </ul> <p style="padding-left: 40px;">各教科の授業 総合的な学習の時間…ICTを活用した地域学習</p> <p>○校内研修会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進校の実践事例について(カリキュラム・マネジメント中心に)</li> </ul> <p>○学年で育成をめざす資質・能力の重点化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は資質・能力(言語能力・論理的思考力)を重点として取り組み、ICTを組み合わせる。</li> </ul> <p>○指導案検討(ICTの活用を明記する)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">☆学びの中でICTを日常的に取り組む。</p>
第2年次	<p>○実践を職員間で共有し、活用場面を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した単元を学年カリキュラムに明記する。</li> </ul> <p>○資質・能力を発揮・自覚させ、繰り返し育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの効果的な活用により、論理的思考力・表現力を育成し授業を行う。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">☆ICTの活用と学びの幅が広がる。</p>
第3年次	<p>○学校でICTの効果的活用場面についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の取り組みを振り返り、効果的な活用場面と今後の可能性について話し合う。</li> </ul> <p>○学年で育成をめざす資質・能力の話し合いと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを系統化し、日常化に</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">☆ICTをツールの選択肢の一つとして使い、学びに生かす。</p>

